

令和6年度
(2024-2025年)

高等部のしおり



トロント補習授業校

The Japanese School of Toronto Shokokai Inc

TEL : (416) 656-4822(平日) FAX : (416)658-8931

Website : <http://torontohoshuko.ca>

目次

	ページ
1. 高等部教育についての説明	2
(1) 設置目的	
(2) 運営の基本方針	
(3) 高等部の教育目標	
2. 高等部で学ぶ科目とその概略	3
教科の説明	
(1) 国語Ⅰ（必修科目）	
(2) 数学Ⅰ（必修科目）	
(3) 国語Ⅱ・Ⅲ（必修科目）	
(4) 数学Ⅱ・Ⅲ（選択科目）	4
(5) 小論文（選択科目）	
3. 評価方法と修得規準	5
4. 進級及び卒業の要件	6
5. 高等部の学校生活	7
◎時間割	
◎生徒会	
◎教育講演会	
◎教育相談	8
◎「学習の心得」「行動規範」	9

1. 高等部教育についての説明

(1) 設置目的

「本校は海外に長期在留した後、本邦に帰国する海外勤務者等の子女に対し、帰国してから適応できる学力の維持、増進を図るために、日本語による教育をすることを主たる目的とする。」という校則第2条に示された目的に基づいて、トロント補習授業校は以下の二つのことをめざしています。

- 帰国後、年齢相応の該当学年に編入できるように基礎的・基本的な学力を身につけること。
- 帰国後の学校生活に適応できるように、日本的規範や行動様式に慣れさせること。

(2) 運営の基本方針

高等部では、補習校本来の目的（校則第2条）に沿って運営を行うことを基本方針としています。加えて、生徒の進路が本邦の高等学校への編入学、大学、専門学校、或いはカナダの大学、カレッジなどと多様化している現状を勘案し、可能な限り生徒のニーズに柔軟に対応した教育課程を提供し、卒業及び進路実現のための支援を行います。

(3) 高等部の教育目標

『夢に向かって、自ら考え行動し、心豊かで新たな社会を切り拓くグローバル人材の育成を図る』ということを実現するため、次の三つの目標に取り組んでいます。

- 生徒が自ら学び、対話を通して積極的に学習に取り組む姿勢を育てる。
- 現地語によってより高度な教科学習を可能にするため、母語・継承語である国語を使用して基礎的・基本的な学力を育成する。
- 深い教養に根ざして、独創的で多様性を包摂する豊かな人格の育成をめざす。

2. 高等部で学ぶ科目とその概略

高等部では、三つの必修科目と二つの選択科目を開講しています。必修科目である国語は毎土曜日2時限の授業で2単位、同じく必修科目である数学Ⅰは毎土曜日1時限の授業で1単位として数えます。また高校2年と3年で選択することになっている選択科目、数学、小論文については、原則として毎土曜日1時限の履修で1単位となります。

1) 国語Ⅰ (高等部1年必修科目；現代の国語 言語文化)

- (1) 教科の目標：「現代の国語」では実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成すること、「言語文化」では、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることを目標とします。
- (2) 教科の内容と進め方：中学教育で身につけた基礎を土台に、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、思考力、判断力、表現力を伸ばしていくことに努めます。また、意見文指導やプレゼンテーションの指導を含め、総合的な国語力の涵養を図ります。
- (3) 使用教科書と主な補助教材：教科書として「新編 現代の国語」「新編 言語文化」を使用します。また、「銀の漢字 必須編―大学入試」を用います。

2) 数学Ⅰ (高等部1年必修科目)

- (1) 教科の目標：教科書の基本的事項の理解と応用力の向上を目標とし、日本国内の普通高校1年生と同じ内容とレベルの授業をめざします。
- (2) 教科の内容と進め方：数学Ⅰでは、数と式、2次関数、図形と計量について学習し、数学Ⅱ・Ⅲの学習内容への基礎固めを行います。授業は、教科書を中心に適宜演習問題を取り入れ、さらに宿題を課し、理解の定着を図ります。また、教師と生徒のコミュニケーションを図りながら、理解が深められるよう進めていきます。
- (3) 使用教科書と主な補助教材：主として文部科学省検定済みの教科書「数学Ⅰ」を用います。演習問題、宿題には教科書準拠の問題集その他の問題集から題材を選びます。

3) 国語Ⅱ・Ⅲ (高等部2年および3年 必修科目；文学国語 古典探究・表現)

- (1) 教科の目標：「文学国語」では、多様な文章等を多面的・多角的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成すること、および小説、

随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成することを目標とします。「古典探究」では、古典を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究することを目標とします。

- (2) 教科の内容と進め方：評論文などの論理的な文章や小説、詩歌などの文学的な文章を読解し、筆者の主張に対する自分の意見を書いたり、様々な資料を分析、整理して自分の意見をまとめたり、話し合いを行ったりします。また、古典文学を読み、日本の文化や伝統とともに、文学に流れる思想や感情を学び、書かれた時代背景の理解やその内容が示唆する現代の問題をも追究します。ミニ・プレゼンテーションの実施、意見文作成とその発表等を通じて、総合的な国語力の滋養を図ります。
- (3) 使用教科書と主な補助教材：「文学国語」、「新編 古典探究」、「金の漢字 最強編—大学入試」、教科書関連文献など。

4) 数学Ⅱ・Ⅲ（選択科目）

- (1) 教科の目標：将来、理科系専攻を希望する生徒に教科書の基本的事項の理解とともに大学入学試験にも対応できる応用力の涵養を授業目標とします。
- (2) 教科の内容と進め方：本コースは数学Ⅱの分野から、三角関数、指数・対数関数、微分・積分を学び、更に数学Ⅲレベルの解析学を修得します。授業は演習問題、日本の大学入学試験問題も取り入れ、日本の理科系大学に進学した際に数学適応がスムーズにはかれる実力の養成をめざします。
- (3) 使用教材と主な補助教材：主として文部科学省検定済みの教科書「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」を用います。演習問題、宿題には教科書準拠の問題集、大学入学試験問題から題材を選びます。更に現地校の教材も適宜使用するものとします。

5) 小論文（選択科目）

- (1) 教科の目標：小論文の基本的な構成と要素、書き方を習得し、大学入学試験に対応できるだけのより高い思考力と洗練された文章作成能力の育成を目指します。
- (2) 教科の内容と進め方：様々な表現活動を中心に授業を進めながら、単元ごとに小論文を書くことに結び付けていきます。また、帰国卒受験対策として、課題文付き小論文の対策や、生徒の進路に合わせた添削指導を重点的に行うとともに、「志望動機書」「面接」についても実践的な学習を進めます。

- (3) 使用教科書と主な補助教材：「国語表現Ⅱ」一部単元、補助教材として入試参考書や新聞記事（時事問題やその評論）、入試過去問題などを適宜採用します。

3. 評価方法と修得基準

1) 概略

高等部では、各教科の指導にあたって、文部科学省検定済み教科書、及び補助教材を使用しています。また、あわせて教科に関連する幅広い資料や海外の文学及び関連の教材も積極的に導入しています。その指導方法及び評価の仕方については、文部科学省の評価基準を準用しています。

2) 評価の基準

A 国語・小論文の評価方法

① 前期の評価：

試験の結果、宿題・課題の提出などを基に教科ごとに前期の成績をつけます。

② 後期の評価：

4月から1月までの試験の結果、宿題・課題の提出などを基に教科ごとに点数をつけます。

③ 1年間を包括するまとめの評価：

2月に行われる1年間の内容を総括する試験と、「小論文」「プロジェクト」等、各教科で出される課題を評価して点数をつけます。

④ 通年の評価：

$\text{②} \times 0.7 + \text{③} \times 0.3$ として計算した結果を点数としてつけます。

* 現地校の評価方法と同じです。①②④が通知表に表記されます。

B 数学の評価方法

① 前期・後期の評価：

中間試験、期末試験、確認テストの結果、宿題、課題、ノートの提出などを基にそれぞれ前期、後期の成績をつけます。

② 通年の評価：

$\text{前期の評価} \times 0.5 + \text{後期の評価} \times 0.5$ として計算した結果を点数としてつけます。

3) 到達度評価

各教科で定める到達度については四段階評価としています。各段階をパーセンテージで表すと次の通りです。

1段階：50～59%、2段階：60～69%、3段階：70～79%、4段階：80～100%

4) 各教科の修得基準と成績の通知

すべての教科について、評価の結果、最終成績 **50%** をもって合格とします。**50%** 以下の生徒は、必修科目の場合、再度履修しなければ卒業資格は与えられません。

4 月中に生徒はそれぞれのコースの評価方法についてオリエンテーションを受けます。また、前期、後期の通知表には上記した評価方法に基き生徒の成績が記され、各生徒に交付されます。

4. 進級及び卒業の要件

高等部進級及び卒業の要件は以下の通りとなっています。

(1) 進級の要件について

- 履修科目の出席すべき時間数のうち、**4分の3以上出席**すること。
- 学年で取得すべき単位を取得した時点で進級とする。

(2) 卒業の要件

- 必修科目 5 単位（現代の国語、言語文化、文学国語、古典探究及び数学 I）、選択科目 2 単位（小論文、数学 II・III）を取得した時点で卒業とする。

(3) 進級及び卒業の可否

- 進級及び卒業の要件を満たすものについて進級及び卒業を認める。

(4) 卒業証明書等の発行

- 卒業生については、卒業証書を発行する。

5. 高等部の学校生活

◎ 時間割

令和6年度の時間割は以下の通りです。授業時間は通常、90分です。

校時 \ 学年	高校1年	高校2・3年
1限	数学 I	国語Ⅱ・Ⅲ (古典探究・表現)
2限	国語Ⅰ (現代の国語)	国語Ⅱ・Ⅲ (文学国語)
3限	国語Ⅰ (言語文化)	選択科目 数学Ⅱ・Ⅲ / 小論文

◎生徒会

トロン補習授業校高等部では、生徒が主体的に生徒会を運営し、様々な行事を企画、実行しています。

(1) 目的

- ① 生徒の自主性、創造性を養う。
- ② 企画、準備の経緯を通して、リーダーの育成を図る。
- ③ クラスや学年を越えた交流を深めつつ、日頃の授業からは得られない集団活動の喜びを知り、その意義について考える。

(2) 組織

生徒会長、生徒会副会長、書記、執行委員（任期は1年、5月の生徒総会で立候補者から選出する）

(3) 主な年間活動

1 学期	5 月 新入生歓迎会 生徒総会 (前年度の活動報告、今年度の目標決定、生徒会組織を決議) 7 月 交流会
2 学期	1 1 月 交流会
3 学期	3 月 年度末行事および 3 年生を送る会

◎教育講演会

トロント補習授業校高等部では、国語教育の一環として、年に 1 回現地で活躍される日本人を講師にお招きし、教育講演会を実施しています。講演会后、生徒は小論文執筆に取り組みます。

◎ 教育相談

高等部では担任を中心に、高校編入や帰国生を対象とした大学受験などに関する相談及び進路指導を行います。また、高等部入学希望者あるいは卒業後の生徒及び保護者からの相談についても必要に応じ、対応しています。教育相談・進路相談を希望する生徒、保護者は担任にご相談ください。

◎ 「学習の心得」「行動規範」

高等部では、生徒のみなさんに、義務教育とは異なり、自らの意志で高等部に在籍していることを念頭に、積極的な姿勢で授業にのぞむこと、高校生にふさわしい自覚に基いた生活態度を保つことを求めています。このために以下の学習の心得を定めています。

【学習の心得（学習姿勢）】

トロント補習授業校高等部生徒は、以下の学習の基本姿勢を保ち、明るく、実りのある学校生活づくりに自ら努めるものとする。

- (1) 日本の国内での教育に準じた学校教育を受けるために、補習授業校高等部に在籍して授業を通して学ぶことを学校生活の基本とすること。
- (2) 義務教育とは異なり、自らの意思で補習授業校に在籍している事を念頭に積極的な姿勢で授業に臨むこと。
- (3) お互いの権利と義務をわきまえること。
- (4) 高校生にふさわしい自覚に基いた生活態度、学習姿勢を保つこと。

【高等部生徒行動規範】

トロント補習授業校高等部生徒は、守るべき基本的なルールとして以下の行動規範を遵守すること。

- (1) 授業時間
開始時間を厳守する。授業開始 5 分前には教室に入り、授業を受ける準備をすること。
- (2) 欠席、遅刻、早退について
保護者の署名入りの欠席、遅刻、早退届を毎回担任に事前に提出すること。事前の届出が不可能な場合にのみ、事後の届出を認める。
授業開始後、定められた授業時間の 3 分の 1 を経過してからの出席は、事前の届出がない限り、欠課扱いとする。早退は最初の 15 分のみ出席し、退出した場合は欠課、15 分以上、75 分未満出席し、退出した場合は早退（3 回の早退で 1 回の欠課扱い）、75 分以上出席し、最後の 15 分に退出した場合は出席扱いとする。
但し、大雪やインフルエンザなどやむをえない事情や、忌引き等で休む場合、また、帰国卒受験で一時帰国をする場合は欠席扱いにしないが、必ず届出をすること。
- (3) 学校施設からの外出について
登校後、下校時刻まで生徒の外出は認めない。
- (4) その他
上記に特記のない事項については「トロント補習授業校校則」「学校生活のきまり」「各種届の提出について」その他、トロント補習授業校が定めたきまりを守ること。また、カナダ国内法を遵守し、法に違反する行為は行わないこと。